パナソニックはどう「サイロ化」を解消したのか？

「データはあるのに活用できない」から脱却する全社データ基盤の実践アプローチ

Panasonic

アジェンダ

1. パナソニックグループの目指す「変革」とは？
2. パナソニックはどう「サイロ化」を解消したのか？
   グループ共通の「PX-データドリブン基盤」とは？
   - 導入の背景と全体像
   - 重視ポイント
   - 活用事例と利用者の声

1. パナソニックグループの目指す「変革」とは？

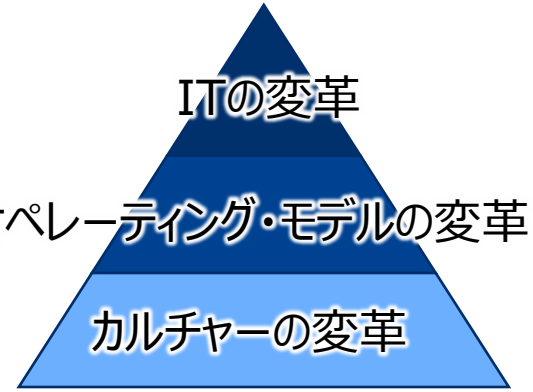
Panasonic

パナソニックグループの目指すDX

1.お客様サービスのDX

デジタル技術を活用して
「くらし」と「しごと」にお役立ちをご提供

2.事業オペレーションのDX



Panasonic

【動画】 Panasonic Transformation: データドリブン経営の実現

PX
Panasonic Transformation

7つの原則

1）グループの重要な経営資源であるデータを、ステークホルダーの「幸せの、チカラに。」つなぐ

2）経営者がデータの利活用と業務プロセスに責任を持つ

3）「お客様を誰よりも理解する会社」になるために、顧客接点の多様性を活かし、
データを徹底利活用する

4）業務プロセスを絶えず進化させ競争力の源泉とする

5）システム化の前に、現場の業務プロセスの現状を把握し、標準化の範囲を明確にする

6）標準化の定義を明確にし、経営者がコミットする

7）現場も含めたグループ内で、データ･テクノロジーを利活用できる人材を増やし支援する

ITの変革は、PXを支える基本の柱

PX：データドリブン経営の実現へ

カルチャーの変革

Data Culture

業務や経営意思決定のプロセスにおいて
データを重視するマインドや行動が根付いている状態

カルチャーと人材	データ活用への経営層の直接関与
	未来を予測するデータ活用へステージを変える

オペレーティング・モデルの変革

Data Literacy

ツールを利用してデータの可視化や分析を行える
基本スキル・知識を誰もが有する状態

組織間連携	共通の活用スキームやプラットフォームの重要性
	データ活用・分析における目的の明確化

ITの変革

Data Management & Infrastructure

常に必要最大限のデータが蓄積され、利用者にそれらの所在・意義が公開され、スピーディにデータの取り出しが可能な状態

データマネジメント	プロセスの標準化とMDMの重要性
	SSOT（Single Source of Truth）
	データオーナー・データスチュワードの定義
組織間連携	共通の活用スキーム・プラットフォームの重要性

ビジネス × IT

Panasonic

私たちはパナソニック デジタルです

パナソニックグループのIT中核企業として、ビジネスの課題や要件を理解した上で、
IT構築の全工程とその運用を担う

カバー領域

幅広い事業領域 × **様々な業務部門** × **グローバル**

- マーケティング
- 設計調達
- 製造
- 販売物流
- 事業戦略
- R&D/商品企画
- 設計・開発
- 製造・SCM
- CS
- 経理
- 人事
- 総務
- 経営管理

×

IT化工程

経営課題 → ビジネス 課題・要件 → IT 戦略・企画 → IT 要件定義 → 開発 → 運用

Panasonic

私たちの立つ場所

パナソニック デジタル
データ＆アナリティクス
ソリューションのワンストップ提供

ビジネス
アナリシス
（課題解決支援）

×

データ
アナリシス
（ソリューション開発）

データ
エンジニアリング
（基盤構築）

PX
Panasonic
Transformation

事業現場

データドリブン
経営の加速

PXによる変化が加速中

PX
Panasonic Transformation

事業現場

データ活用が
ますます「自分ごと」化

意識面・取り組み面ともに
現場主導での変革が加速

パナソニック デジタル

事業現場からの
支援依頼が急増

現場の変革に先んじて、
さらなる専鋭化へ

- 業務プロセス標準化
- データ定義（SSOT）
- デジタル人材育成

「ビジネスの意思決定」と「データ分析」の距離感を変える

従来のデータ活用

- ✔ 専門家による分析
- ✔ 限定的なデータ活用

あるべきデータ活用

- ✔ 現場による分析（「事業理解」に基づく「データ分析」）
- ✔ 常時データを活用（「分析」と「意思決定」の一体化）

「意思決定」をよりスピーディに

プロアクティブ

将来起り得る事業リスクへの対策

どうすれば実現できるのか？

何が起きるのか？

拡張・自動化

事業変化への迅速な対応

なぜ起こったのか？

何が起きているのか？

リアクティブ

経営・マネジメント・現場の各層における

意思決定の迅速化

ヒト＆モノ（プラットフォーム）をワンストップで支援

ビジネスアナリシス＆データ分析
現場の課題解決・成果創出を支援

アナリティクスプラットフォーム
現場のデータ利活用環境を拡充

「現場ドリブン」

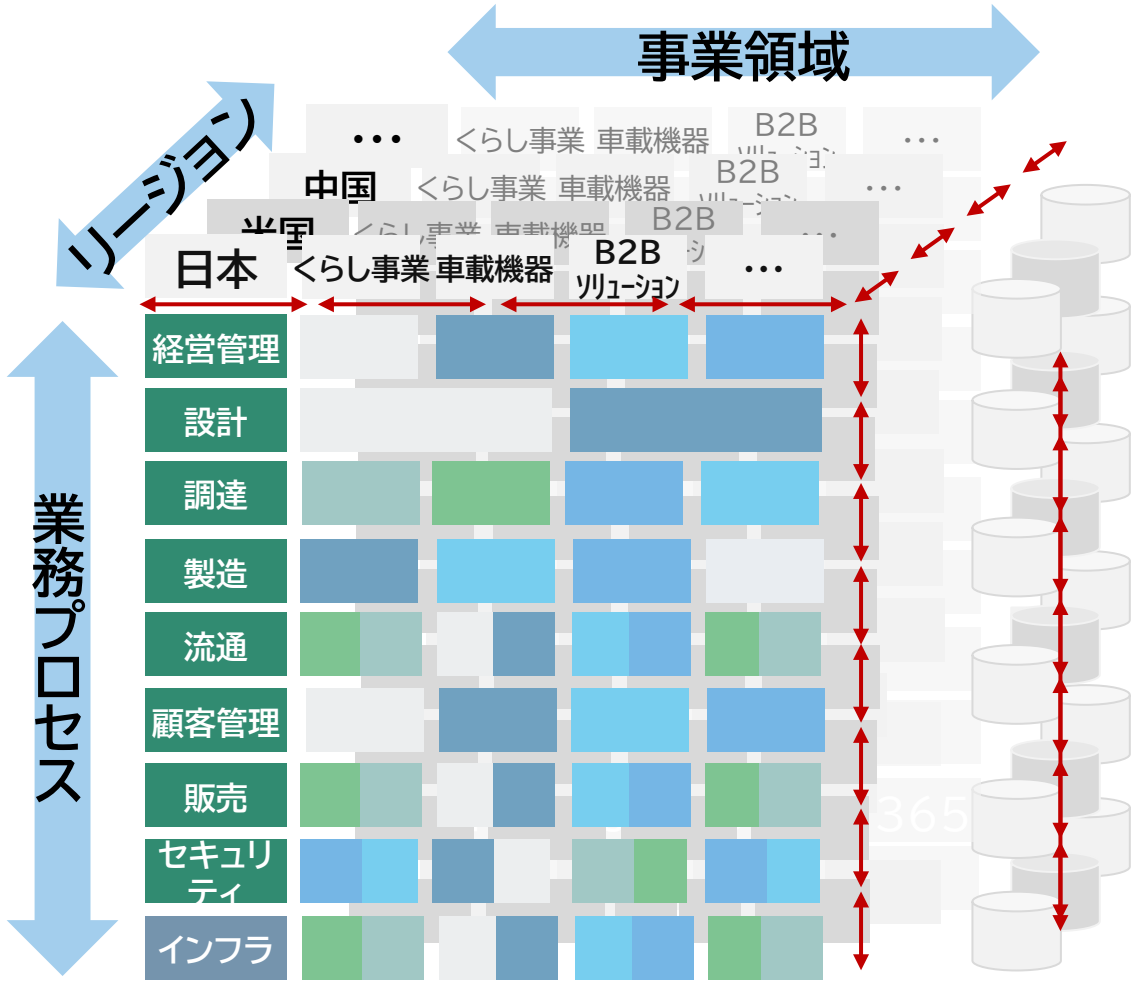
～事業現場に徹底的に寄り添い、伴走する～

2. パナソニックはどう「サイロ化」を解消したのか？ グループ共通の 「PX-データドリブン基盤」とは？

Panasonic

これまで直面してきた課題

グループ全体のITは複雑化しがち・・・

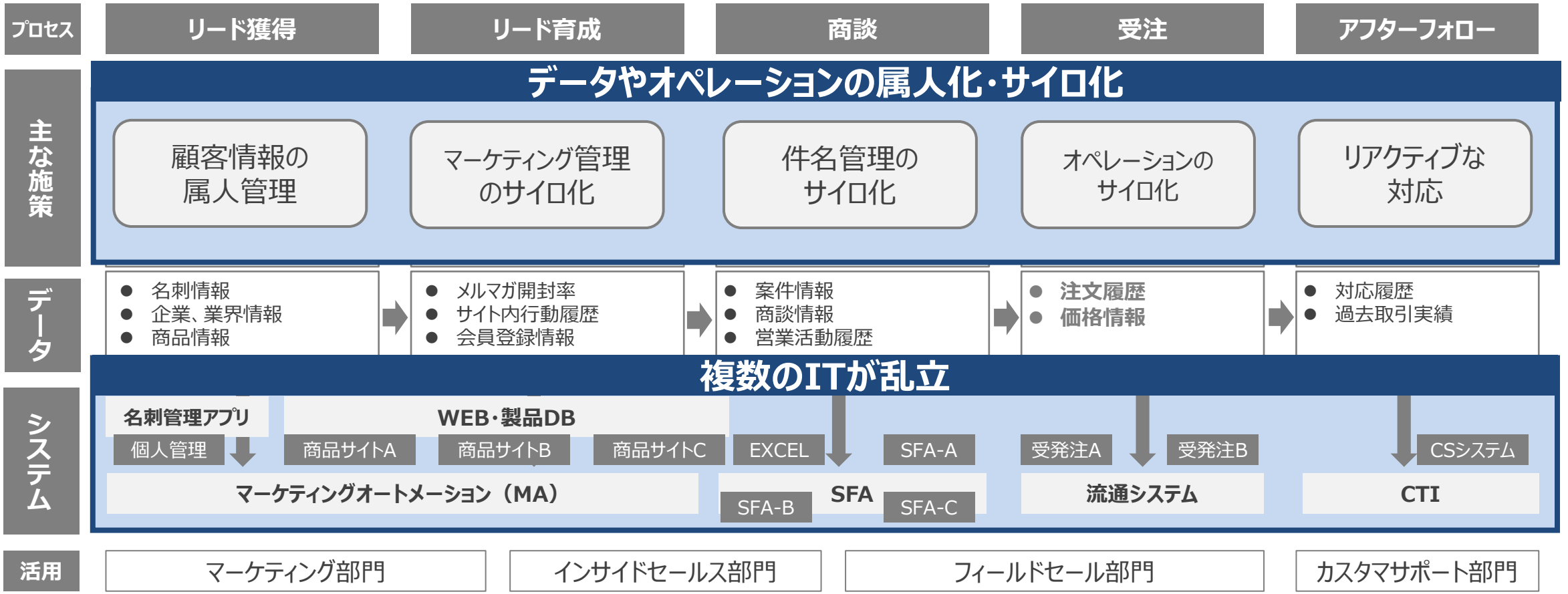


多事業の集合体

「事業×リージョン×業務」の
マトリックス経営

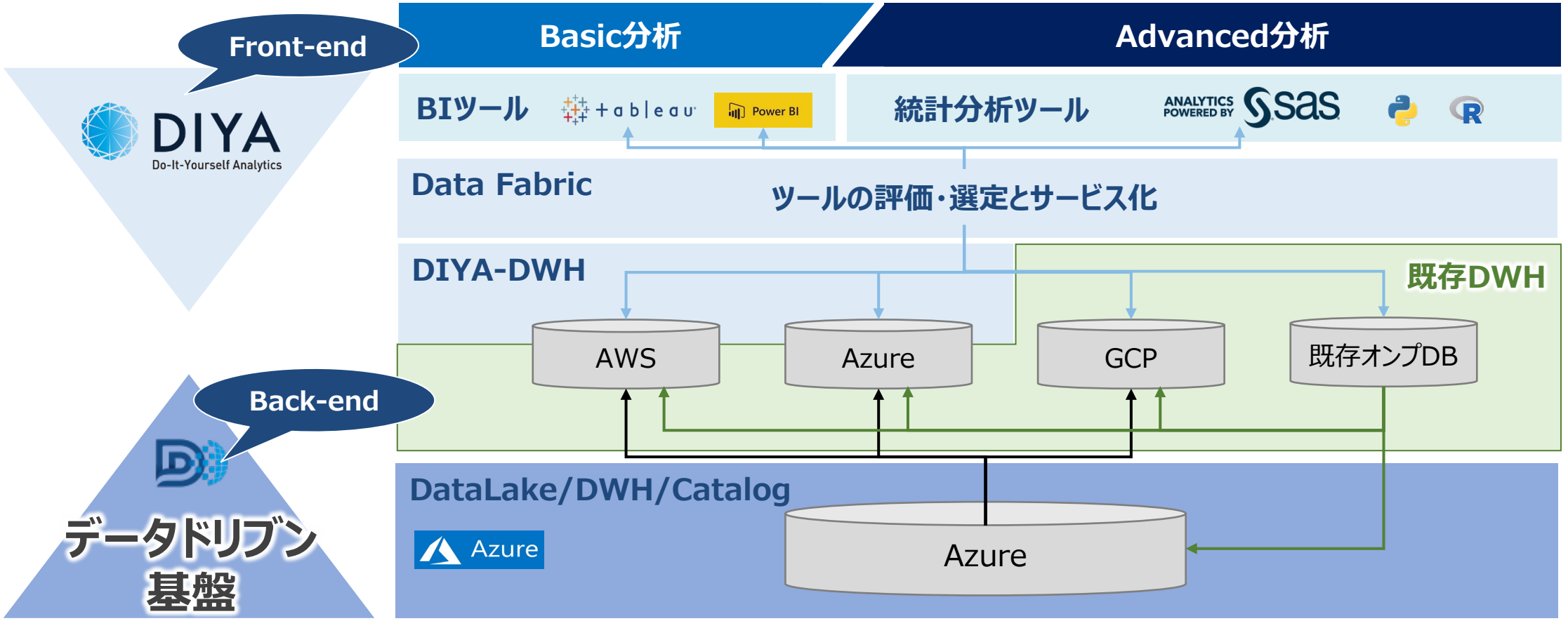
これまで直面してきた課題

ITの乱立と同時に、属人化・サイロ化が進みがち・・・



グループ共通基盤の全体像

Back-endとFront-endのグループ共通基盤を活用し、既存DWH資産を活かしつつ
事業会社のデータ基盤を最適統合化



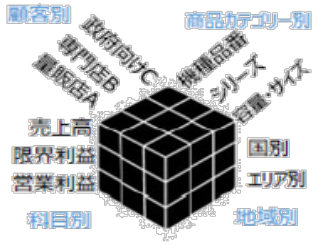
PX-データドリブン基盤のコンセプト

様々な源泉アプリのデータを一元管理し、高品質・高鮮度なデータを各事業現場に提供

グループの取り組み

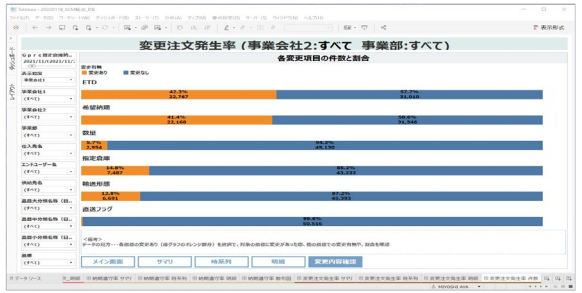
PX：データドリブン経営の推進（データに基づく経営・業務の意思決定および高度化）

様々な切り口のデータを分析



経営の見える化

業務の高度化



取り組みの土台

高品質・高鮮度なデータ提供

データドリブン基盤

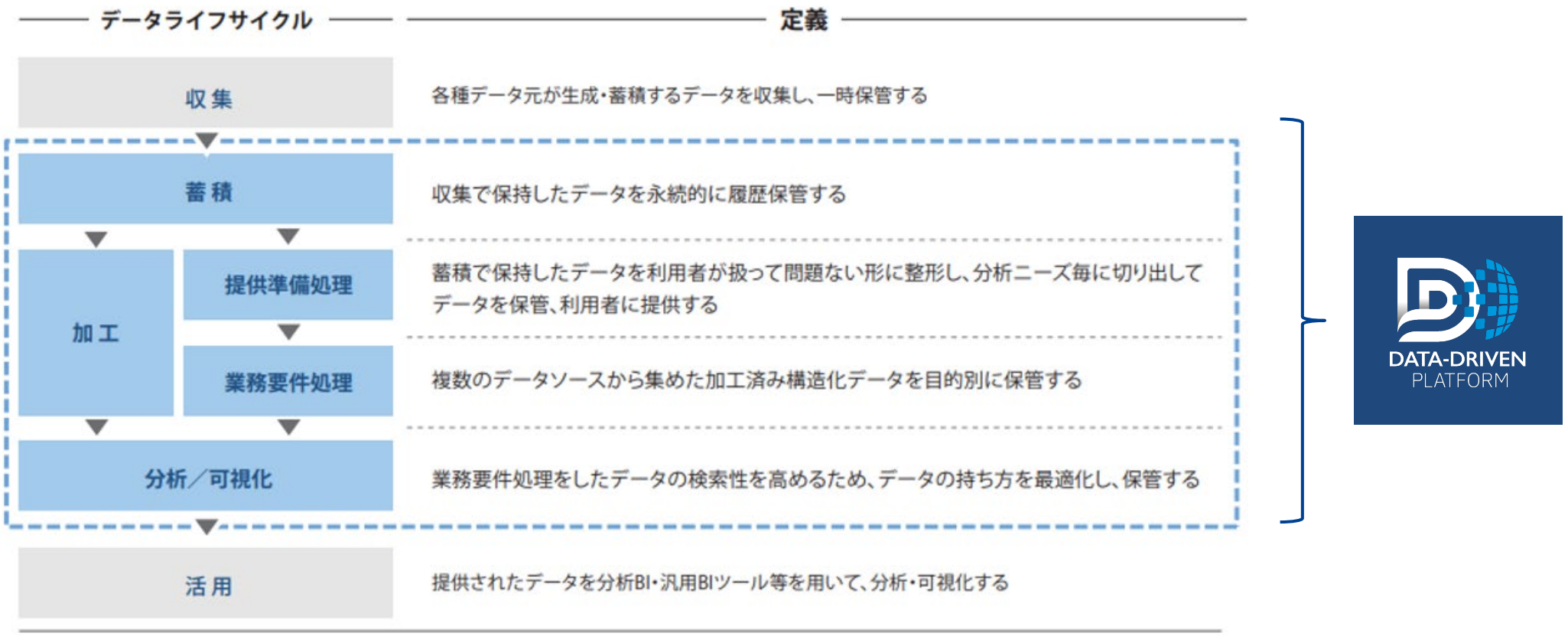
源泉アプリ

- ERP
- SaaSアプリ
- 機器・センサー
- その他アプリ

Panasonic

データライフサイクルにおける役割

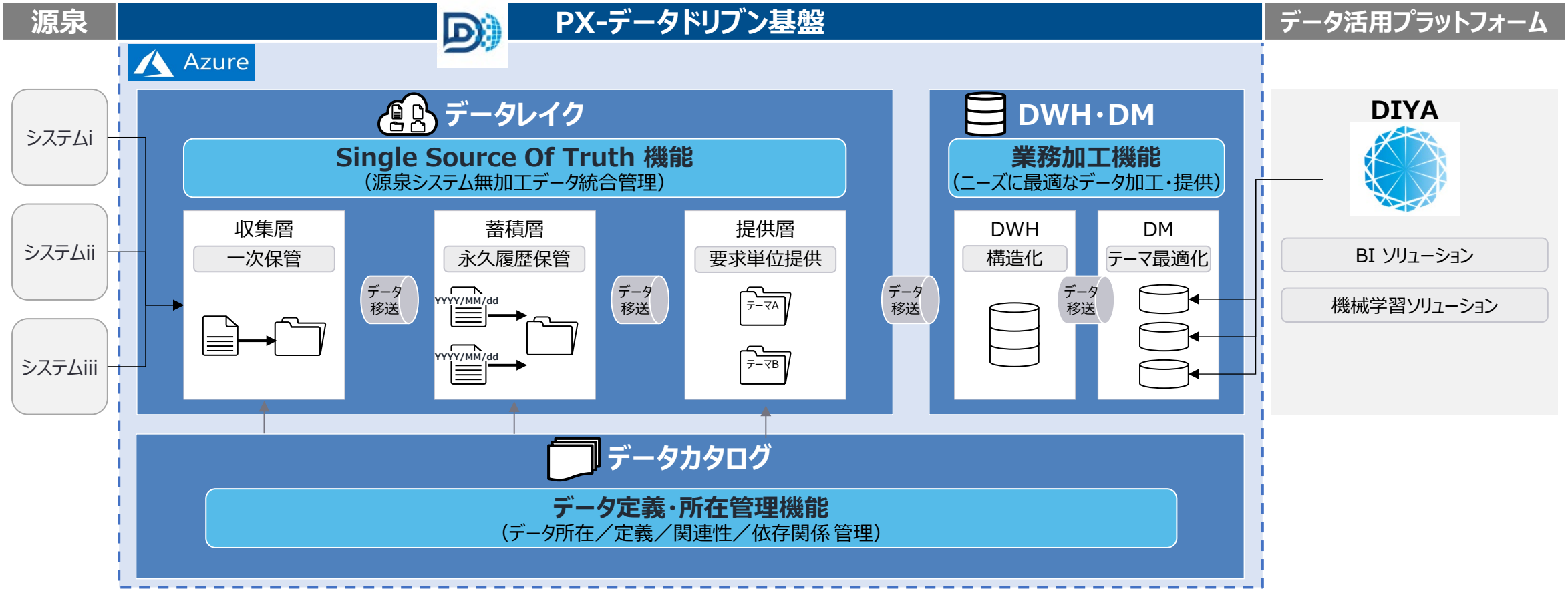
データの蓄積・加工・提供プロセスに特化することで、
ビジネスの意思決定の根拠となる「正確かつ高鮮度なデータ」を迅速に提供



基盤の全体像

凡例： データドリブン基盤 | Azure リソース | データ保管層 | 機能

「SSOT機能を備えるデータレイク」、「業務加工処理機能を備えるDWH・DM」、
「データ定義と所在管理機能を備えるデータカタログ」で構成

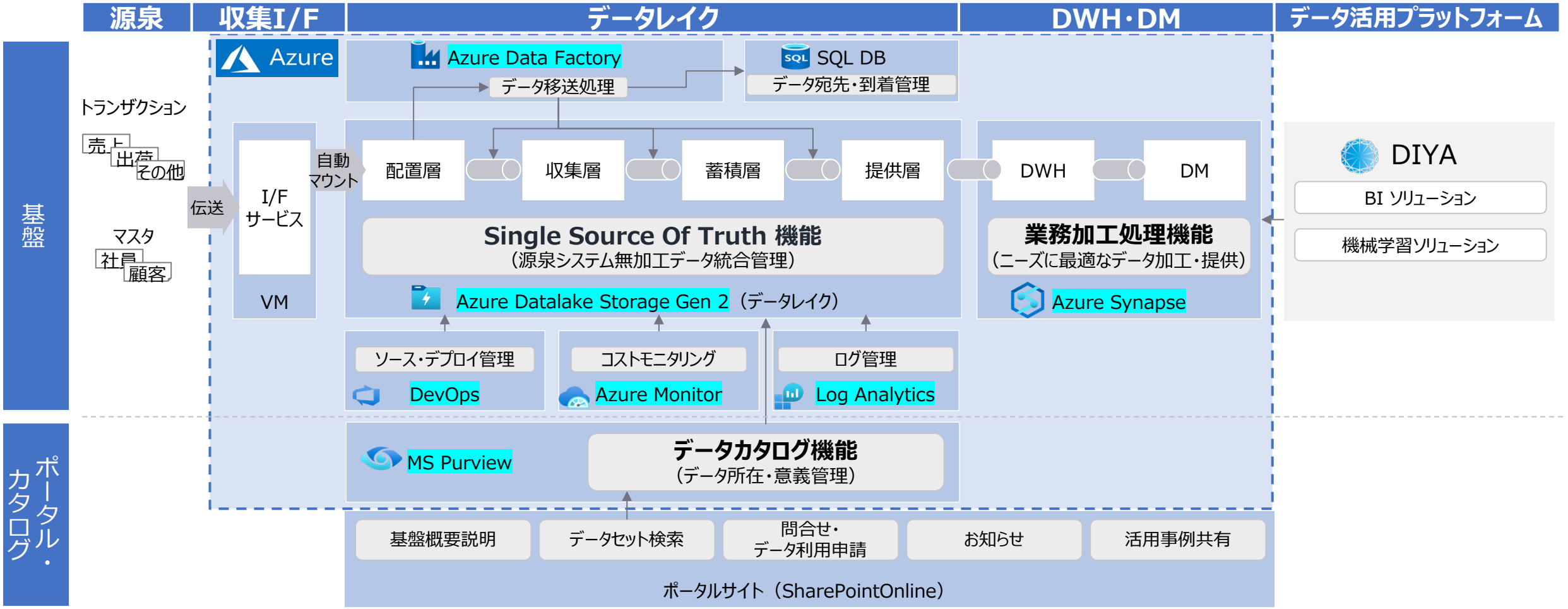


Panasonic

基盤のアーキテクチャ

凡例： データドリブン基盤 | Azure リソース | データ保管層 | 機能

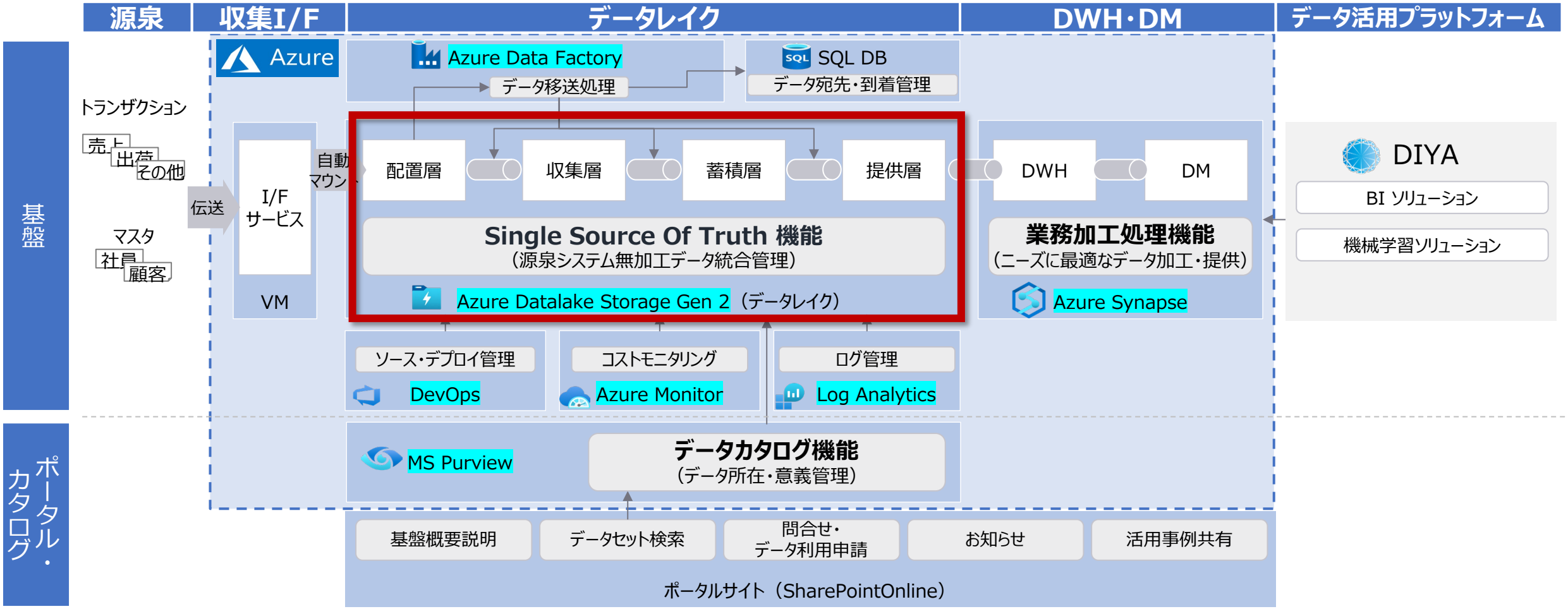
Microsoft社のクラウドサービス（Microsoft Azure）をベースにしたフルクラウド構成



基盤のアーキテクチャ

凡例： データドリブン基盤 | Azure リソース | データ保管層 | 機能

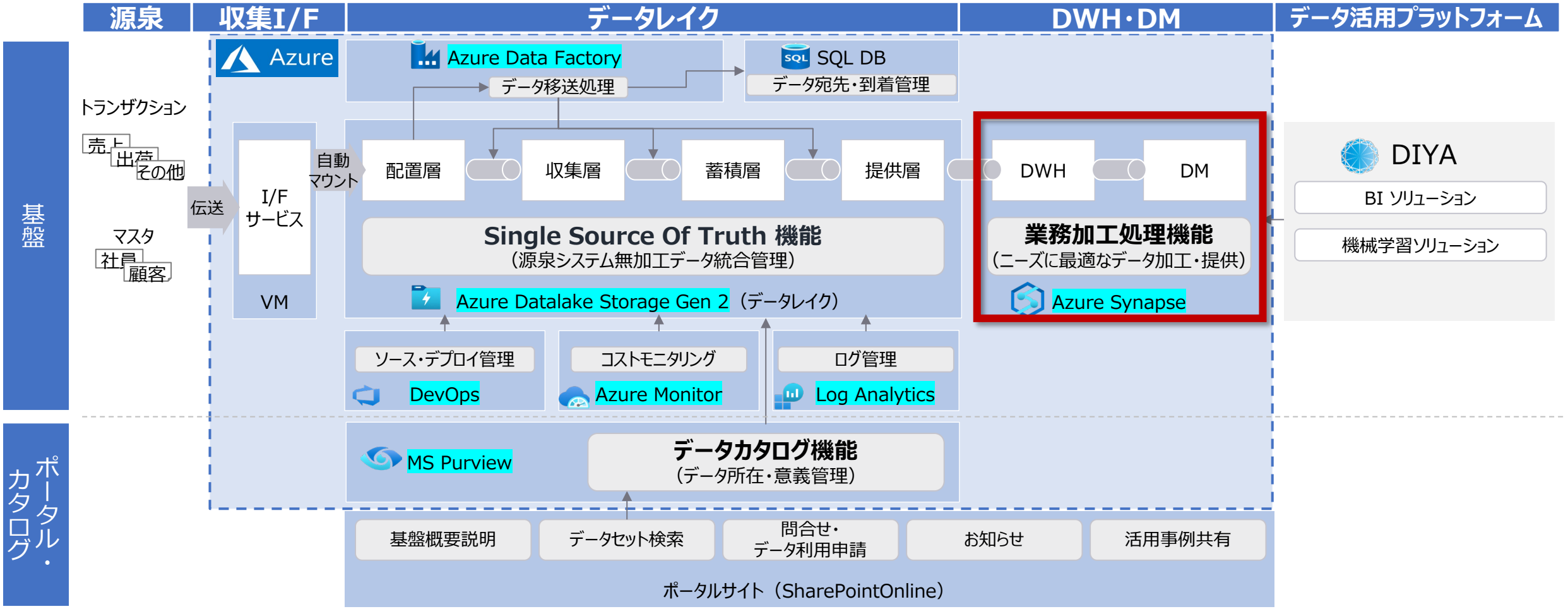
①データレイク：非構造化・半構造化・構造化の全てのデータを安価に、長期間保管



基盤のアーキテクチャ

凡例： データドリブン基盤 | Azure リソース | データ保管層 | 機能

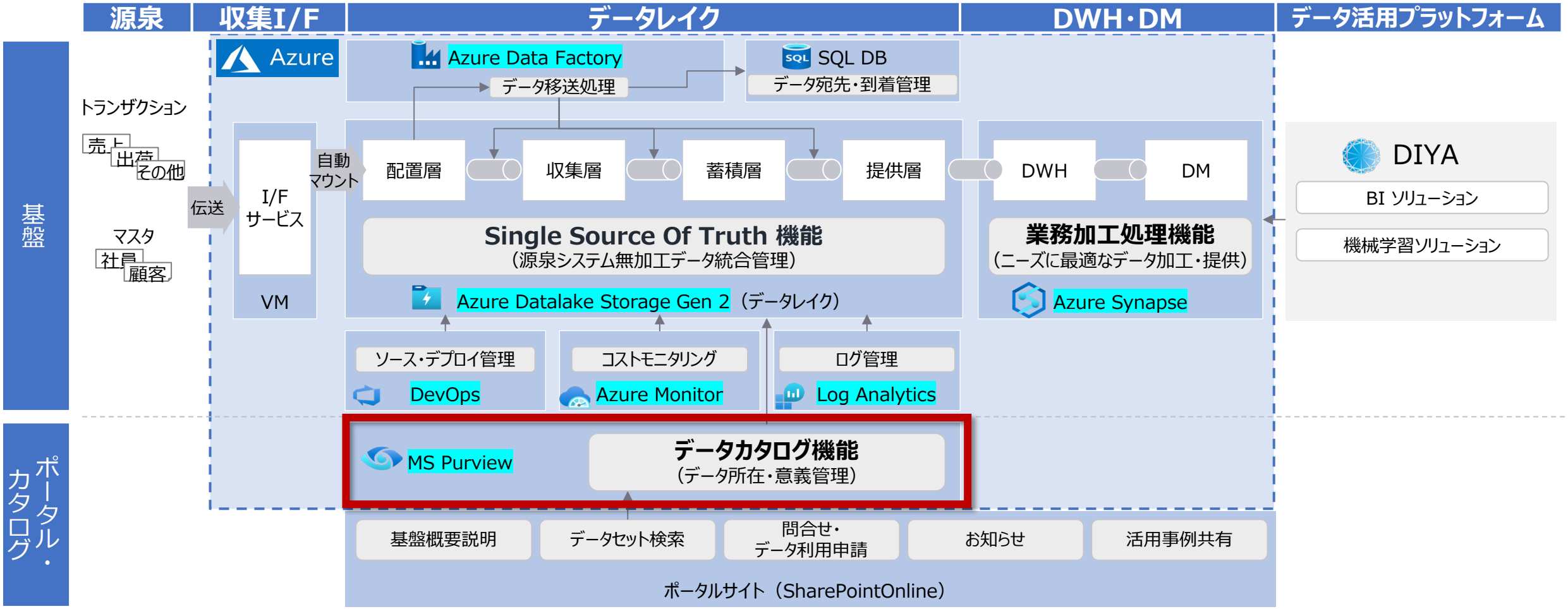
②DWH/DM：データ加工とデータベースの一体化。分析目的に応じた柔軟なデータ保持



基盤のアーキテクチャ

凡例： データドリブン基盤 | Azure リソース | データ保管層 | 機能

③データカタログ：ユーザのデータ検索支援、データガバナンスの実現



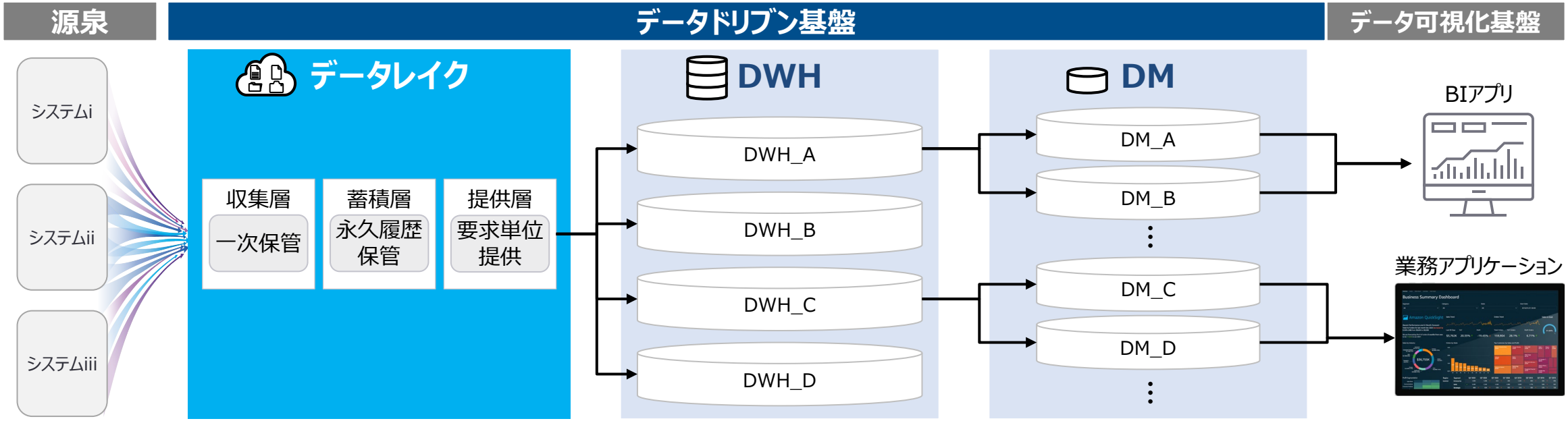
Panasonic

重視ポイント1：SSOT

✓ SSOTの原則のもと、
「唯一正しいデータ」を一つの基盤に集約

SSOT とは？

→「Single Source of Truth（信頼できる唯一の情報源）」の略称。信頼できるただ1つのソースを確立することで、情報の一貫性と正確性を確保し、組織内の全員が同じデータに基づいてビジネスの意思決定を行うことを保証するために使用される概念。



源泉無加工データの統合管理

保管可能なデータ形式の柔軟性や
保管コスト低減効果を評価し、
源泉アプリの様々なRAWデータを集約

全社横断管理データの保管

事業分社・統合化により分散した
各領域のデータを統合し、全社の
データ品質を向上

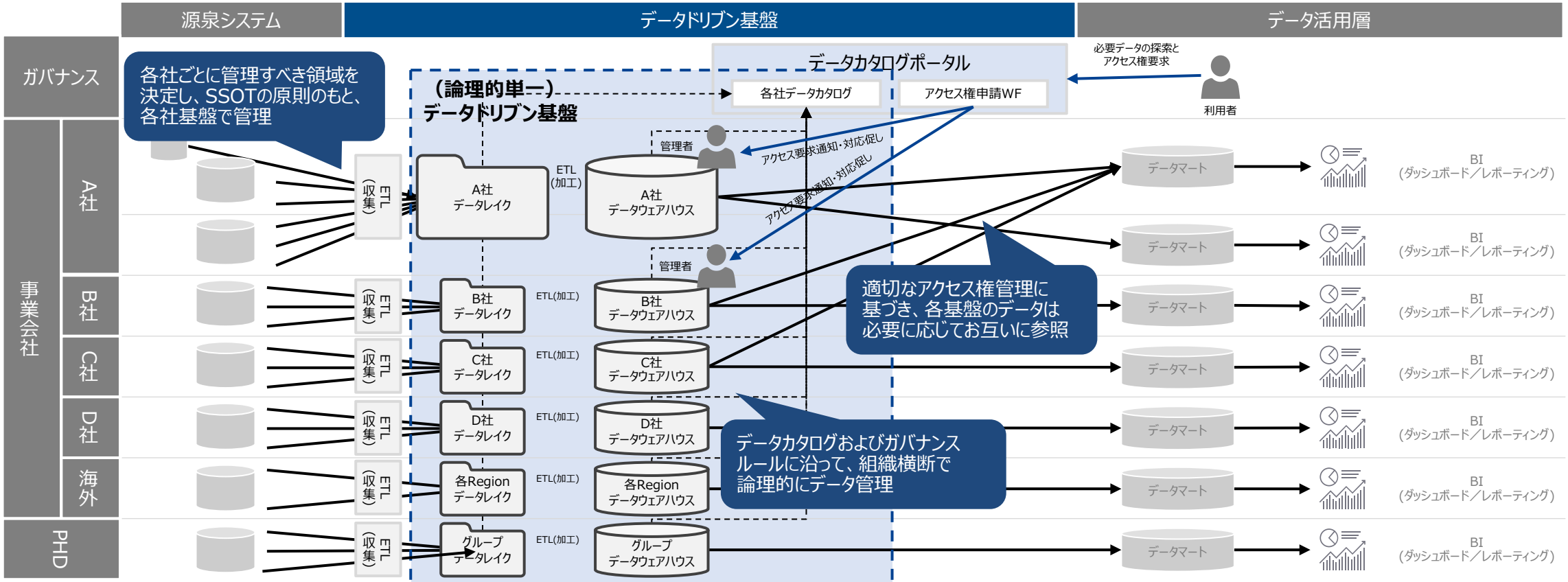
**データ利活用アプリへの
データ最適化**

データの利活用要件に最適な形に
データを加工・保管

Panasonic

重視ポイント2：論理統合

- ✓ IT部門側の都合で、無理に一つの環境に統合はしない
- ✓ データカタログで、基盤とデータを論理的に統合
- ✓ データのガバナンスを効かせる体制・プロセスを検討



Panasonic

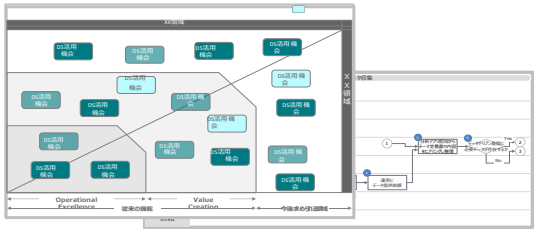
重視ポイント3：導入プロセス

✓ データ戦略策定から基盤の構築・導入、活用定着まで、ワンストップで現場に伴走

アジャイル・循環型でスパイラルアップ

データ戦略策定・業務再設計

- ビジネスニーズや事例を基にデータ利活用ケースを整理
- データ蓄積のロードマップ策定
- データドリブンな標準業務化のデザイン



データ統合・活用
（データ収集／加工／分析・可視化）

□ データドリブン基盤の導入

- データレイク・DWH・DM・データカタログなど
- データドリブン基盤の設計・構築方法
- データ、アーキテクチャ・モデリング設計
  （パフォーマンスの高くBIツールを活用するためのデータ設計設計）

□ データ活用のフロントエンドシステムとの連携

業務試行・定着化および評価・改善検討

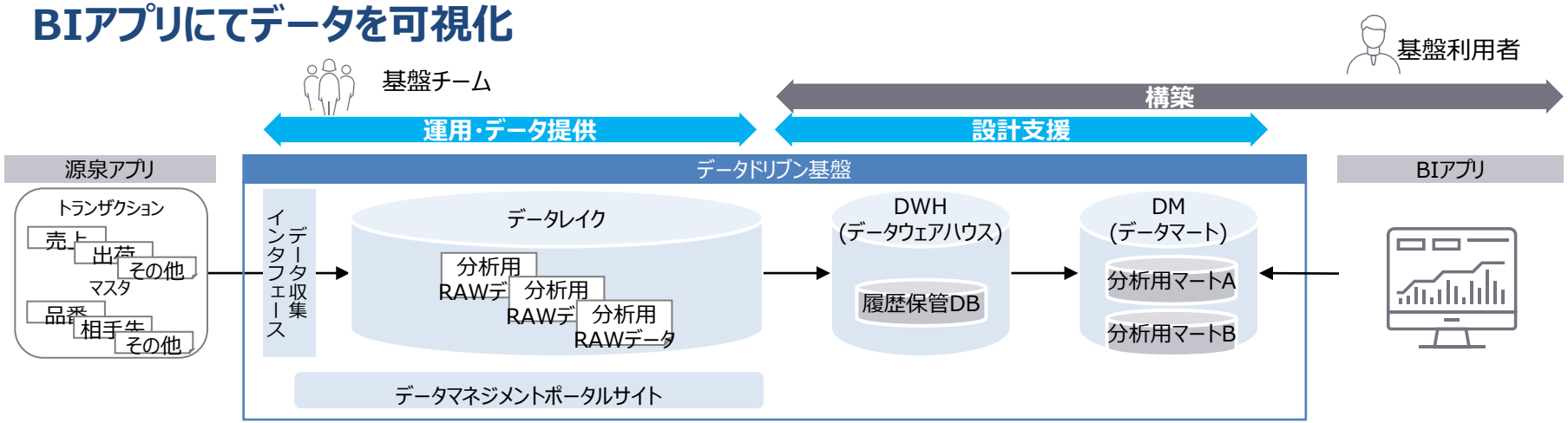
- 業務試行・定着化に向けた評価、および改善点の洗出し

Panasonic

複数の組織内を横断した分析のため、大規模なデータ分析アプリケーションを構築したい

想定アーキテクチャ

大規模データを扱えるよう、BIアプリのパフォーマンスを最適化するDWH・DM環境を構築のうえ、BIアプリにてデータを可視化



提供サービス

A	データレイクサービス	提供バケットにより、源泉アプリのRAWデータを提供
B	DWH・DM環境提供サービス	パブリッククラウド[1)]サービスのデータベース環境を提供 （必要に応じて分析環境設計支援を実施）
C	データマネジメントポータルサービス	データの出自・意味・内容を管理するデータカタログ機能を提供

Panasonic

利用者の声

最新データをスピーディに
取得できるようになった！

大規模なデータ管理基盤の
構築・運用コストを削減できた！

データの出自・意味・内容も
簡単に追跡できる！

グループで活用することで、
データドリブン経営をさらに
加速していけそうだ！

データ収集・データ活用についてもっと詳しく知りたい方へ

お気軽にお問い合わせください

お問い合わせ